普及活動情勢報告（平成２０年９月分）

安芸農業振興センター　農業改良普及課

情勢報告

‘入河内大根のこそう会’３年目の挑戦

作業を終えて記念撮影

「今年も順調に育ちますように」

９月５日、‘入河内大根のこそう会’は、共同圃場で播種をおこなった。

「入河内大根」は、安芸市入河内地区に古くから伝わる赤紫色のダイコンで、地区の農家などが‘のこそう会’を結成し（平成 18 年７月）、優良系統の選抜や栽培の研究、レシピの開発・ＰＲ活動などに取り組んでいる。

この日は 18 名が参加し、２ヵ所の共同圃場に選抜した５系統や播種方法などを比較する畦を設け、畦立てから播種までを協力しておこなった。また、農業振興ｾﾝﾀｰから「栽培指針」を配布し、特に‘ぬき菜’として利用する場合の農薬使用上の注意点について説明した。

昨年は、多くのマスコミに取り上げられ知名度もアップした。ダイコンの形質が安定し栽培面積が徐々に増える中、販路の確保も重要な課題であり、‘のこそう会’の３年目の挑戦が注目される。

第４回土佐鷹普及推進協議会を開催

８月 28 日に土佐鷹の普及推進協議会を開催した。協議内容は、20 園芸年度の販売実績、21 園芸年度の安芸管内の栽培面積や生産管理、販売方針などについて検討を行った。農業振興センターは栽培面で営農課と協力し、定植前に行った栽培講習会の報告や９月から各地区で行う土佐鷹現地検討会、篤農家の展示圃設置などの取り組みについて報告した。

園芸連のナス販売担当者が出席できず、販売計画について、JA 土佐あき園芸課が把握している状況の報告であったため、具体的な販売計画をこの会で詰めることができなかった。今後連携を図るためには、関係機関の調整と意志疎通が必要である。

北川村ユズ大学（新規ユズ栽培者向け）を開催

北川村で新規にユズ栽培を始める方を対象に、役場が音頭をとり、ユズ大学（8/27、9/6、9/11 の３回、延べ 25 名参加）を開催した。30 歳から 62 歳までの若者から退職組と巾広い方が集まり熱心なユズの勉強となった。

農業振興センターからは、栽培の基礎を広く、浅く、販売と流通は園芸流通課の伊藤主任がきてユズがどのように売られているのか詳しい説明があり、皆熱心に耳を傾けていた。最後に、今後は柚子部の研究会活動へ参加し、これからの北川村のユズ振興に向けて活動して欲しいと、村長からの修了書と記念品のせん定鋏をもらい、無事修了した。

ナス栽培、本格始動　～安芸地区で地区会始まる～

「この葉は、もう摘んでえいろうかねえ？」
「まだ根張り用に働きゆうき、置いちょきや」

8 月 28 日～9 月 22 日にかけて、安芸市内 4 カ所でナス生産者を対象とした地区会（栽培講習会・現地検討会）を開催し、延べ 90 名が参加した。

栽培講習会では、「18ｔどり」を達成するための栽培管理をテーマに、定植後～10 月にかけての灌水や整枝・摘葉について説明を行なった。また、コナジラミ類対策として有望視されている土着天敵について、安芸市内の土着天敵温存グループの取り組みについて紹介した。

現地検討会では、主に整枝・摘葉技術等を確認。特に女性の参加者から多くの質問があり、女性部を対象とした技術講習会の必要性を感じた。また、ハウス内に土着天敵増殖用のゴマを植えている圃場では、天敵の採取方法や増殖技術について、熱心に語り合う姿が見られた。野外採取を希望する地区もあり、10 月中に実施できるよう検討中である。

安芸地区の地区会も 3 年目を迎え、徐々に地域に浸透しつつある。今後も、生産者同士が気軽に教え・学び合う場として、園芸年度内に３～４回程度の地区会を開催する予定である。

第１回ＪＡ土佐あき吉良川支所ナス部会の開催

早やこんなに大きくなっちゅう！！

９月 18 日、農業振興センターと JA 芸東営農センターは、ナス部会の現地検討会を支援した。部員 12 戸の各圃場を巡回し、生育状況に応じた灌水、施肥や誘引及び摘葉状況について検討しあった。巡回後、農業振興センターは「18ｔどり」に向けた栽培管理について説明を行った。現地では、「下葉の摘葉時期は？」「適切な土壌水分とは？」といった質問もあり、土壌状態などは手で感触を深めてもらいながら助言・指導にあたった。今後も活動計画に沿って、「18ｔどり」に向けた指導を行っていく。

東洋町野根地区でブロッコリー栽培が始まる

ブロッコリーを見守る生産者

圃場整備が進んでいる東洋町野根地区でブロッコリーの定植が９月 19 日から始まった。

ブロッコリーは平成１５年から基盤整備農地の活用についてＪＡ稲作部会・町・ＪＡ・振興センターの関係機関が協議を重ね、今年から推進することとなった有望品目であり、２戸の農家が 20a の水田で栽培を始めた。

この日は台風 13 号の影響で定植が危ぶまれたが、事前に施肥、畦上げをしており、雨が上がるのを待って水田に植え付けることができた。今回は早生品種のみの試作栽培であるが、農家の一人は「このブロッコリーがうまくいったら来年は作期を伸ばして面積を拡げたい」と語っていた。

農業振興センターではブロッコリーの成功に向けて、ＪＡと連携して追肥・防除等の基本管理指導や先進地視察研修等を実施する。